

2014. 7. 27 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2014年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

XX. 山上の垂訓④「ホーリネスへの祈求——主の祈り」

A. 「主の祈り」とは

1. 「主の祈り」は、山上の垂訓の核心である。神を父と知っている神の子どもたちが拠り所とすべき「新しい真理の本質」である。

2. 制定の背景：「だから、こう祈りなさい。」(9節) 真の祈りとは、隠れたところにおられる父なる神に、しかも、すべてを知り給う神に捧げられるべきであるという勧め(5~8節)の続きとして「主の祈り」が紹介される。

B. 「主の祈り」の内容

1. 呼びかけ：「天にいます私たちの父よ。」(遠くにいる非人格的な方ではなく、身近な、そして優しい父としての神)

2. 最初の三つの祈り

①「御名があがめられますように」=聖い神のみ名が「きよめられますように」=聖なるものと認められますように=私たちの行動や態度で聖名が汚されることがありませんように、との祈り

②「御国(神の支配が妨げなく行われる領域)が(私の心に、社会に、そして世界全体に)来ますように。」

③「(愛なる)みこころが天で(完全に)行なわれるように、地でも行なわれますように。」

この三つは、実は一つの祈りである。神の名が私たちの全身全霊で崇められる時、神の国は確かに存在しており、神の御心は行われている。

3. 後半の三つの祈り

- ①「私たちの日ごとの糧を今日もお与えください。」＝飲食の営みも、私たちは神の栄光のために行う（1 コリ 10:31）。その必要のために私たちは神に全面的に依存している。
- ②「私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。」＝罪は神に支払うべき負債である。キリストの贖いのゆえに、私たちの負債は赦される。赦された者が、その感謝をもって他を赦することができる。逆に、他を赦せない者は、神に赦される恵みを知らない。
- ③「私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。」＝誘惑への弱さを表明しつつ、神の助けへの依存を表明する。

4. 頌栄（初期の写本には無いが）：「国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。」中心的テーマである「御国、力、栄光」に再度焦点を合わせて祈る。

おわりに：

「主の祈り」を、意味を噛みしめ、思い巡らしつつ、ゆっくり祈ろう。